

令和 6 年度第 5 回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）

開催日時 令和 6 年 10 月 21 日（月曜日） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 40 分

開催場所 立川市女性総合センターアイム第 2 学習室

出席者 [委 員] 倉持 伸江 会長 檜崎 茂彌 副会長 大槁 正則 委員
 柴 香里 委員 梅田 茂之 委員 竹内 英子 委員
 宮本 直樹 委員 来住野 清子 委員 岩元 喜代子 委員
 杉浦 早苗 委員

[事務局] 立川市生涯学習推進センター長 庄司 康洋
 同 管理係長 加藤 暁子
 同 生涯学習係長 海野 仁
 同 市民交流大学係長 牧野 三枝子
 同 管理係員 大須賀 雄大（記）

傍聴 0 名

次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 協議事項
 - (1) 令和 6 年度第 4 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
 - (2) 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 5 年度取組状況の進捗評価について
 - (3) 立川市第 7 次生涯学習推進計画策定に向けた検討について
4. その他
 - (1) 令和 6 年（2024 年）第 3 回立川市議会定例会報告について
 - (2) 12 月臨時会の日程調整について

配付資料

1. 令和 6 年度第 4 回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）
2. 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 5 年度取組状況の進捗評価表について（令和 6 年度実施）
3. 第 7 次生涯学習推進計画 生涯学習施策の体系（案）
4. 令和 6 年（2024 年）第 3 回立川市議会定例会報告

会議内容

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 協議事項
 - (1) 令和 6 年度第 4 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
 （会 長）事務局より説明をお願いいたします。
 （事務局・管理係員）資料の 1 です。事前に確認をお願いしておりましたが、修正意見はございませんでした。本日ご意見がないようでしたらご承認いただけたということで、市

のホームページに公開したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(会 長) ありがとうございます。何かお気づきの点や修正点などございますでしょうか。(なし)

(2) 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 5 年度取組状況の進捗評価について

(会 長) 事務局より説明をお願いいたします。

(事務局・管理係員) 資料の 2 番です。メールでご意見を募りまして、3 項目についてご意見がありました。それを評価委員の方にも見ていただきまして、そのご意見に基づいて事務局で修正した案となります。修正された 3 項目を中心にいただいて本日完成となりますので、よろしくお願いいたします。修正した点は、13 ページ、第 2 段落の「文化財」を追加しております。続いて、16 ページ、第 2 段落の最初の文章ですが、中身を大きく変えたというよりは表現を変えさせていただきました。修正した最初のところ、「若い世代の利用の推進のため」となっているのですが、「推進」のところを「促進」に変えた方が適切だろうということで、変更したいと思いますのでよろしくお願いいたします。最後の修正箇所は 17 ページです。第 2 段落を変更していますが、こちら表現を変えておりますが、中身の意味は変わっておりません。最後の「歴史民俗資料館については」というところですが、元々は第 2 段落の冒頭にあったのですが、移転の話と資料の保管の話を分けた方がいいだろうということで、新しく第 3 段落を設けて移動させております。修正箇所は以上となりますので、今の部分を中心にご議論いただければと思います。

(会 長) ありがとうございます。前回から今回にかけてご確認をいただいて、3 点の修正がありました。大きな修正というよりは、表現や文章のわかりやすさからご修正をいただいています。本日確定で教育委員会に提出ということにしたいと思いますので、ご指摘があればご意見をいただければと思います。

(A 委員) 13 ページの追加は私がお願いをしまして、「郷土に関する伝承など」となっていて、「伝承」と言うと風習や方言などのイメージがあって、物に関する内容が抜けているように感じたので、入れていただくように提案いたしました。

(会 長) ありがとうございます。形あるものもないものも歴史や文化を引き継いでいくということで、非常に重要なご指摘だったかと思います。そのほかいかがでしょうか。(なし) 評価委員の皆様には何度も丁寧にご検討いただきましてありがとうございます。委員の皆様にもご確認いただいて、評価・コメントだけでなくご提案も含んだ中身にすることができました。ご検討いただきありがとうございます。先ほど事務局からの説明で、16 ページの部分の「推進」を「促進」に変えて確定としたいと思いますよろしいでしょうか。(異論なし)

(3) 立川市第 7 次生涯学習推進計画策定に向けた検討について

(会 長) 事務局より説明をお願いいたします。

(事務局・センター長) スケジュールについて 10 月 18 日にメールをお送りいたしまして、その内容につきまして説明をさせていただきます。10 月 2 日の第 4 回の審議会で計画の策定のスケジュールについて 3 か月延伸ということでお認めいただいたと

ころでございます。策定スケジュールを遅らせることは、理由があれば長期総合計画を所管する企画部門と調整しておりまして、了承をいただいていたところではございましたが、他のスケジュールと合わせて計画策定を進めるようにと上層部より話がありました。3月の議会に素案の提出をするようにと指示がございました。このことを受けて、急遽、倉持会長に相談をしまして、その結果が資料 3-1 でございます。どの個別計画も長期総合計画に合わせて、次期を同じくして策定される予定となっております。倉持会長と話し合った内容というのは大きく 5 点です。計画素案を 1 月末までに事務局で作成することとなったため、審議会からの答申を年内までをお願いしたいというものです。本日 10 月 21 日に体系案を提示するとともに前回の答申をベースに答申の骨子案をお示しした方がいいということ、答申の作成に時間がないことから前回の答申をベースに変更を加えるのがあるのではないかとのお話をいただきました。答申の作成につきましては、主に会長と数人の方をお願いをして、他の委員に確認していただくのがいいのではないかとのお話がございました。11 月 11 日には答申案の検討ができればよろしいのではないかと、その後、もう一度答申案の検討ができればと考えております。最終的に答申案の協議を行うため、12 月中旬に臨時会を行うのが望ましいのではないかとということでお話を進めてきたところです。このように話を進めさせていただいて、いろいろとお手を煩わせてしまい申し訳ございませんでした。委員の皆様にも混乱を与えてしまい申し訳ございませんでした。短期間の答申の作成となりますが、このような事態となりましたので、ご協力よろしく願いいたします。

(会長) ありがとうございます。センター長から説明があった通り、前回の生涯審では前回もそうだったということもあって、委員が答申の内容を考えた方がいいというご意見をいただいて、その方向で進めようとなりましたが、前回示されたスケジュールだと難しいので 3 か月くらい余裕を持たせてもらおうということで動き始めていたのですが、長期総合計画に合わせたスケジュールにするには、先ほどおっしゃっていただいたスケジュールでいかないと間に合わないということになります。スケジュールは変えず、みなさんから意見をいただくという両取りをしようとする、このスケジュールの合間に宿題が出るということになります。委員の皆様には評価が終わったところではありますが、計画策定に向けて宿題が出てしまうことになってしまいます。檜崎副会長からも前回ご意見がありましたが、自分たちの手で作っていくことは大切なことだということは確認しましたので、忙しくなりますが、ご協力いただければと思います。本日は、体系を確定しつつ、答申の方向性も共有して、次回会議では答申の中身についても検討したいと思っています。お手元に資料 3-2 があると思うのですが、体系案も考えながら答申案も考えるために、この間の三連休を使って、答申案の方向性と皆様のご意見を踏まえて体系の方向性をたたき台として作成しました。それを檜崎副会長と事務局に確認をしていただきまして、整理したのが資料 3-3 です。それを広げていただきながら資料 3-2 の説明を行います。まず、資料 3-2 ですが、1 番の構成です。目次、順番になるのですが、第 1 章の基本目標が、大きな図で言うと左側の「生

涯学習社会の実現」の部分にあたります。第2章が施策の体系ですが、前回の答申では重点項目の説明でした。それから施策目標、施策の方向、具体化の取組の説明があって、最後に施策の体系という順番でした。今回は先に施策の体系が見えてから詳しい説明の方がいいのではないかと考えて、あえて2章に持ってきました。これについても後でご意見いただければと思います。続いて、計画全体に渡る基本目標、前回で言う「生涯学習社会の実現－市民の共学・協働に育まれたまちづくり」というのを変えるか変えないかという点です。前回の案ではウェルビーイングを入れた方がいいのではないかとのご意見と、流行り的な言葉でもう少し継続性のある言葉の方がいいのではないかとという両方のご意見がありました。この部分について少し整理をしました。「生涯学習社会の実現」という言葉を継続するかどうかという点について、事務局に第1次から第6次まで生涯学習推進計画の基本目標がどのように変わっているか調べてもらったら、第1次からずっと継続して使用していました。だから変えてはいけないということではなく、事実として変わらない表現でここまでできていました。副題は「市民の共学・協働が育むまちづくり」になっていますが、副題は変わっていたこともあるので、継続するか変更するならどういう言葉を入れるかというのが検討のポイントになるかと思っています。前回ご提案のあったウェルビーイングを入れるのか、今表示されている共学・協働を入れるのか、もしくは新しい言葉を入れるのかというところが検討のポイントになるかと思っています。矢印の赤字になっている部分が私の意見ですけれども、主題変えずというところは教育の継続性や長期的視点で考えると「生涯学習社会の実現」は10年かかって進めることだと考える、ここは変えずに、副題は時代のニーズや今の地域の課題に応じた観点で変えることも含めて検討するのはどうかと考えています。そういった考え方で案を4つも考えてきたのですが、新しいことではなくて、案1は少し変えていて、檜崎副会長からのご意見を踏まえて、より能動的な形になっています。案2は前回事務局からご提案のあった表現となっています。ウェルビーイングは実現よりも向上の方がいいかと思っています。案3や案4は楽しくなってきたいろいろな考えたもので、バリエーションはいくつもありますよというものです。前回、ウェルビーイングという言葉がわかりづらいというご意見がありましたので、私なりに勉強をして、教育におけるウェルビーイングについて記しています。特に文部科学省が新しい振興計画の中でキーワードとして挙げているので、そこで使用されている意味について抜粋してきたものになりますので、参考までにお読みいただければと思います。ここまでが基本目標の部分となります。すべて説明すると長くなってしまいますので、ご意見いただければと思います。

（A委員）私は「共学・協働が育むまちづくり」という文面がいいと思いました。まちづくりを支える原動力は共学・協働である、まちづくりを創造する要因は共学・協働である、あるいはまちづくりを育む大切なものは共学・協働であるという、作り上げていく大本は何かと考えると「共学・協働が」の方がより主体的な文面でもあるし良いと思いました。

（会長）ありがとうございます。「に」が「が」に変わるだけでニュアンスが大きく変わ

りますね。

（Ｂ委員）私は生涯学習社会そのものがよくわからなくて、どういう社会をイメージして生涯学習社会と言っているのでしょうか。市民がいくつになっても学び合えることが当たり前になっている社会というような理解でよろしいのか、他に深い意味があるのか教えていただきたいです。

（会 長）ありがとうございます。おっしゃっていただいたような意味でよろしいかと思います。誰にもいろいろな機会があって学べる社会ということと、もう一つ足すとなると、それらが正当に評価される社会という、いろいろな場面でいろいろ学んだものが学びの成果や評価を受け入れる社会ということだと思います。基本目標のところにどういう社会を指しているのか記載する必要があるかもしれないです。

（事務局・センター長）生涯学習社会の意味ですが、第６次計画では、人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を指すと定義されております。平成３０年の文部科学白書でも「生涯学習社会の実現」というキーワードが挙がってきておりますので、これを受けて定義されているものと考えております。

（会 長）ありがとうございます。他に基本目標についてご意見ございますか。

（Ｃ委員）以前の審議会では会長から「５年先でも使えるような」というお話があったと思います。この資料を早めにいただいたのでいろいろ考えてみたのですが、生涯学習社会の実現はそのままがいいと思います。大きな目標なので、なかなかできるものではないと考えたということと、５年先でも実現に向けて取り組むべきだと考えました。その後の副題の部分ですが、ウェルビーイングという言葉がこの先使われないとは思わないのですが、少し前から使われていて５年後はどうだろうか考えたときに、もう少し馴染みがあって、使い慣れた言葉で表現した方がいいのではないかと思います。その理由で一番上の「共学・協働が育むまちづくり」が一番伝わりやすいということと、残りやすく使い続けられると思いました。案３には持続可能な地域の創り手の育成という言葉が進捗評価にも多く出てきて、私もそれが一番大切だと思いますので、副題として魅力的だと思うのですが、この表で言うと右側に表現されていればいいと思いました。案４もキャッチーなフレーズで生涯学習のまち立川であったらすごくいいと思ったのですが、５年後まで考えたときに案１だと思います。

（会 長）すごくわかりやすく整理していただきありがとうございました。基本目標の言葉が変わることで玉突きで右側の言葉が変わるところも出てきてしまう可能性があります。今おっしゃっていただいたように重要な概念なんだけど、もしくは、これから重要になってくる概念なんだけど、基本目標は継続的に立川らしさを残して、新たに出されたキーワードは他のところに反映させていくというのは確かにそうだと思います。よろしいでしょうか。戻ってくることはできるのですが、一旦仮決めしないと次に進めないなので、基本目標は「生涯学習社会の実現―市民の共学協働が育むまちづくり」の方向で進めていきたいと思います。

続いて３．重点項目です。資料３-３でいうと上の部分となります。第６次計画

は3つの柱だったのですが、第7次計画では一つ増やされた状態で検討してきました。一つ目は継続部分の表現を変えるかということです。「市民の学びの力をまちづくりに生かす持続可能なしくみづくり」を「市民の学びがまちづくりにつながるしくみづくり」としまして、「持続可能な」を取っているので戻した方がいいということであれば戻していききたいと思います。より能動的にということと生かすではなくつながるに変えています。「たちかわ市民交流大学を核とした市民の学びの推進」の部分ですが、立川市の生涯学習推進計画なので市民の学びなのは当然ですし、一つ目で市民の学びと言っているので、重複を避けて市民を取りました。「たちかわ市民交流大学とともにつくる共学・協働の学びの推進」という風にしてみました。私の資料では案1で「たちかわ市民交流大学を核とした多様な学びの創出（充実/拡充）」というのもいいかと思って二つの案を示させていただきました。重点項目の3つ目ですが、第6次計画では「地域拠点としての地域学習館での学びの推進」だったのですが、地域学習の「学習」を足して「地域学習拠点としての地域学習館の機能の強化」としました。学ぶのは市民なので学ぶ市民の推進とはどういう表現だろうということで、市民が学びを豊かにするためには学習館の機能を強化するとか向上することかだと思いますので、このようにしてみました。重点項目の4つ目は新しいものとなります。前回の資料では「デジタル活用の推進」となっていて、他が「～としての」とかがついていて、ドライになってしまうので、「デジタル化の推進による学びの裾野の拡大」としました。センター長が大学にいらっしゃったときに中身に何を入れるかで意見交換をしまして、インターネットから講座を申し込むのを拡大するとか、講座のオンラインやオンデマンド動画を配信するとか、デジタルデバイド解消のための学習機会とか、地域学習館の予約システムが変わることとか、広報で SNS をもっと活用しようとか、今回の評価でもありましたが、学習相談でインターネットを使用できないとか、諸々の中身がデジタルの部分に入るので、学びの裾野の拡大を足してもいいかなと思いました。この後、学びの裾野の拡大という言葉が出てくるので使いまわしすぎかなという気がしないでもないです。デジタル化を推進することによって、学びに何を求めるかということがあった方がいいと思ったので、いろいろな人がアクセスしやすく、学びに参加できるようにするところが大きなものだと思いますので、このようにしました。それではこの重点項目4つについて、ご意見いただければと思います。

（A委員）重点項目の2番の「たちかわ市民交流大学を核とした」というのがあまり好きではなかったです。そこを核とすると他の学びに入る余地がないように思えて、「ともにつくる」であればいいかと思いました。

（会 長）ありがとうございます。「ともにつくる」派ということですね。

（A委員）講座はそこだけではないですよ。企業や行政や地域がっていうこともありますので。

（会 長）たちかわ市民交流大学そのものが大きな傘になっているので、市民推進委員の企画もあれば行政企画のものもあって、全部含めてたちかわ市民交流大学と呼んでいるので、ほぼすべてがその中に網羅されているという意味で「核」だったわ

けです。他はいかがでしょうか。

(D 委員) 重点項目 4 のデジタル活用の推進の話なのですが、前回の会議でも意見を出させていただきましたけれども、文化財の保護でのデジタル活用ですとか、今後 5 年間で広がると思うのが A I の話だと思います。それによる生涯学習関係職員の改善や効率化まで踏み込みたいと考えたときに、学びの裾野の拡大でもいいのですが、本来、課題解決のためにデジタル活用を進めていくようなお話だと思いますので、5 年先でも同じ目標のまま状況に合わせて課題解決をしていければ思いました。なんと書けばいいのかはわかりませんが、ストレートに「課題解決」と入れてもいい気がしました。「学びの裾野の拡大に伴う課題解決」でいいのかわかりませんが。

(会 長) 課題解決だけ入れると学びのための課題解決みたいになるので、言葉が繋がらないのですが、おっしゃることはよくわかります。

(D 委員) もっと広いのですね。

(会 長) そうですね。なんというのがいいのでしょうか。元に戻して「デジタル活用の推進」だけにしておいた方がカラーがつかなくていいですかね。

(副会長) 「学びの多様な展開」はどうでしょうか。

(会 長) 「デジタル化の推進による学びの多様な展開」。

(D 委員) デジタル技術は秒進分歩なので、一年経ったら大きく変わってしまう可能性があります。ここで書いたことが陳腐化するのがとても怖いです。

(会 長) 広い意味合いで記載した方がいいですね。

(B 委員) この計画は、行政側がこうしますよという計画を作って提案しているので、市民の皆様は一緒に取り組みましょうという意味の計画でよろしいのでしょうか。そうすると「裾野の拡大」の部分が行政側から見て、一般市民の皆様の学習機会が増えたり、中身が充実したりということにつながるということであれば裾野の拡大でいいと思います。話が少しずれてしまいましたが、「市民の学びがまちづくりにつながるしくみづくり」のまちづくりは市民が行うものなのでしょうか。行政が作る計画はどのような観点で作られるのかについて理解できていないので、混乱してしまう部分があります。

(会 長) 「市民の学びがまちづくりにつながるしくみづくり」は改めて見ると少し強いですね。まちづくりにつながらないといけないのかという気持ちになってしまいますね。直接つながっていなくても結果的につながっていることもたくさんあると思います。

(B 委員) ウェルビーイングのように、みんなが豊かに充実した人生を送れるような生涯学習が進んでいるという状態で、まちづくりのまちと言っても建物ばかりではなく人づくりや市民づくりという気がします。そういったものが計画になった時にすんなり入ってくるようなものになるといいと思います。

(会 長) 重点項目なのでここから始まるいろいろな取組に縦串というか、市民の学び自体は多様にあっていいのだけれども、その学びが地域とつながったり、地域に参加したり地域に役立ったりということも意識した事業展開を行政が行う事業としては検討できると思いますよという観点だと思います。そういう観点ではある

のですが、表現によっては押しつけがましいという印象にもなりますね。

(E 委員) まちづくりにつながらないテーマはだめなのかという感じですかね、B 委員としては。

(B 委員) 自分が学んで、それで豊かになるのであればそれでいいのではないかという気がしました。

(会 長) 合唱も体操も最終的にはまちづくりにつながるとは思います、言い方によって、まちづくりにつながるのでいい講座で、これはつながらないから悪い講座となってしまうのはダメですね。この表現についてはもう一度考えた方がよさそうです。

(E 委員) ウェルビーイングについて前のページに「多様な個人が…も含む包括的な概念」とあるので、理想的にはこの状態に個人がなるのだと思うのですが、豊かな人生とか単にまちづくりにつながるだけではないことが盛り込めたらいいかもしれないです。

(F 委員) とても難しいとは思いますが、行政が作る計画なので、どの計画でもまちづくりにつながっていて、よりよい立川にしていこうとか、よりよい地域にしていこうのように、まちづくりがすべての基本にあると思うので、まちづくりという言葉はとても大事で計画には必要だと思います。ただし、自由な学びを保障することも大事なので右側の表に入ればいいと思います。最初に「市民の学びがまちづくりにつながるしくみづくり」がきていて、行政が目指すのはそこだと思います。ここに「持続可能な」が入ってしまうと違和感があって、同じことが続けばいいということではなく自由に展開していただきたいので「持続可能」が入っていないことはよいと思いました。皆様が言うこともわかるのですが、その内容が中に組み込まれていけばいいのではないかと思います。

(B 委員) ありがとうございます。行政がまちづくりを目的にしているということであれば、そこを押さえるということに関しては納得いたしました。

(D 委員) 以前、都市社連協の調布であった定期総会の帰り際に、生涯学習振興プランが積み上げられて配布されていたので、中を見たのですが、基本理念が「一人ひとりの学びでつながるぬくもりあるまちを目指して」となっていました。まちづくりのことが基本になっているので、行政とはそういうものなのだなと思いました。

(E 委員) 個人のことだけを書いてしまうと受益者負担の考え方になってしまうので、公共の福祉といいますか、利益につながることを書かないと社会教育と言っても予算の獲得にも影響してしまうのではないかと思います。

(副会長) これは市の方がこういう風にしてほしいということが書いてあって、市民を縛るということではないと思います。

(会 長) ありがとうございます。今のご指摘とても大事なことで、表現はこれにするにしても、個々の文章のところでは豊かな学び、自由な学びということは基本にありつつも、市として力を入れる部分として地域社会に参加するとか地域の中に居場所を見つけるとか、ひいては地域づくりにつながっていくことはしっかり書いた方がよさそうですね。今のところデジタル化のところは裾野の拡大ではなくて、一旦「多様な展開」にしておいて、いい表現が見つかったら言っていただければと思います。それ以外のところはいかがですか。地域学習館の機能の強化

はこれで大丈夫ですか。言い過ぎでしょうか。

(B 委員) いいと思います。

(会 長) ありがとうございます。大事ですね。

(F 委員)「地域学習拠点としての地域学習館」の部分が同じ言葉が並列になっているので、「学習拠点としての」にしてはいかがでしょうか。

(会 長) ありがとうございます。「地域」を取りましょうか。迷ったところではあります。地域の学習拠点という言い方が染みついていたのでそうしたのですが、地域学習館という言葉から地域のことを言っているのはわかるので、冒頭の地域は取りましょうか。「学習拠点としての地域学習館の機能の強化」

(副会長) いいですね。

(会 長) 少し悩んだところとして、以前、学習拠点以外の機能も地域学習館にニーズがあるのではないかという話があって、いろいろな機能が付加されてもいいと思いますが、学習拠点としての価値も大いにあるので、いろいろなメッセージが入っていました。

(F 委員) 様々な学習から福祉的なものも生まれつつ、それを受け入れる立川市はすごいと思いました。

(会 長) 防災の活動や環境の活動や福祉の活動をやるとかも含めて学習館は広がりを持っていて、学習がそこをつないでいるということですね。

(E 委員) 地域の防災倉庫にするわけではないので、「学習拠点」ですね。

(会 長) 他にございますか。

(D 委員) 施設関係になるのですが、前回の進捗評価でも触れている遊休施設の活用とかは重点項目に入れると重いということで、ここでは学習館だけ入れておけばいいということでよろしいのでしょうか。

(会 長) II-2 のあたりに学習等供用施設の話も入ってきているので、関連施設の有効活用はこのあたりに入ってくるかと思います。

(D 委員) もう一つ意見を出しました部署間の横断的な連携という、この5か年の間に市長部局に移ってしまうかもしれないということも考えて、組織的な連携をどこに入れていいのかわからなくて、新しい項目としてあげられるのか、もしくは、重点項目に入れた方がいいのかわからなくて。

(会 長) 前回もおっしゃっていただいたので、項目として立てるか考えたのですが、すでに入っているところもあって、他の部署との連携として出前講座などをやっています。今の話で言うと、改めてたちかわ市民交流大学という仕組みに立ち返ると、行政内でいろいろな講座をするのも交流大学の傘の中に入っている話なので、部署間の連携が改めて大事だということを、2番目の項目の「たちかわ市民交流大学とともにつくる共学・協働の学びの推進」の文章に、市民との協働だけではなく他部署との連携・協働も地域課題解決と学びということをつなげて考えるという形で、生涯学習の大切な項目だということを強調するという表現の方法もあるかと思いました。

(D 委員) 入れられるなら安心しました。

(会 長) 皆様にも作文を手伝ってもらいながらになりますが、入れていきたいと思いま

す。次に移ってもよろしいでしょうか。

次は施策目標のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳです。第6次計画までは3つでした。それに副題がついていたので長かったです。今回の第7次では4つに分けています。これも第1次計画から調べていただいたところ、第4次計画までは目標が5つに分かれていて、それが3つに統合された経過があるみたいで、ここの部分は増やしたり減らしたり過去の計画でも方向性によって変わっているので、特に問題ない感じがしました。施策の方向や具体化の取組のカテゴライズと関わってくるのですが、全体を見ながら提案をしたいと思います。先にホチキス止めの資料の施策の方向・具体化の取組の検討ポイントを見ていただきたいのですが、前回の提案で「伝統文化の推進」と「学社一体の推進」を新しい項目としてはどうかということがありました。伝統文化の推進では施策の方向から外して具体化の取組に入れてご提案したいと思います。施策の方向が1個と具体化の取組が1個というのがバランスが悪かったとセンター長からお話を伺って、この結果となりました。4つの施策目標に対して2つずつ施策の方向があって、具体化の取組がそれぞれにつながっています。第6次計画より1つ増えています。統合したものと新たに立てたものとありますので、まとめた説明となりますが、資料3-3を見ながらご意見を頂戴できればと思います。施策目標のⅠは前回と変えておらず、副題は取っています。施策の方向の1は変えておりません。2は元々は整備となっていました。その先の活性化という言葉に変えています。具体化の取組の「①市民ニーズにこたえる事業の推進」はそのままです。②は拡充に変えています。提供だけだと与えるだけなので充実させる意味で拡充としました。Ⅰ-2に入っていた「交流の場や機会の提供」をこちらに入れて③としました。次にⅠ-2の①はそのままです。カッコの中は代案としてこういったいい方もあるかと思って入れておきました。②は「多様な主体と連携・協働した学習機会の創出」に変えました。元々の各種団体・組織という表現がわかりやすいのかわかりにくいのか、市民団体や市民組織という印象を受けるのですが、ここに他部署との連携や協働が入ってきたり、地運協などの組織も入っていたので、多様な主体という言い方に変えました。ただし、多様な主体という言い方があまり一般的ではないように思いますので、いい言葉を模索しながらこういう表現がいいというのがありましたらご意見をお願いします。次は大きなⅡです。第6次計画のⅡとⅢを合わせた形で「学びの裾野を広げる学習情報・学習施設の活用」となっております。学習施設と学習情報は違うのですが、学びのベースという意味では同じですので、ここにこの言葉を入れました。従来の「学習情報の提供」だったものを「学習情報の効果的な発信」に変えました。第6次計画ではⅡ-1-①と②は別々だったのですが、これを一つに合体させまして、「様々な媒体の活用による情報発信と広報」にしてみました。評価や計画を見ても事業が重なっていて、言っている内容も重なってきてしまうので、一つにまとめて丁寧に説明した方がわかりやすいと思ってこのような形になりました。もう一つは「学習相談体制の充実」です。委員の皆様から多くのご意見をもらうことも多いので残してみました。2の「学習施設の活用促進」は第6次計画のⅢ-3の表現を変えて、項目は変えていません。次にⅢですが、「立川

のまちを知り、育てる学びの推進」ないし、「つながりづくり・地域づくりの学びの推進」にしています。今までなかった施策目標なのでこういった表現がいいかご意見いただければと思います。1の「地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進」ですが、第6次計画でⅠ-2-②に入っていたものを一つ上げて、施策の方向に入れました。この中に「立川市民科の推進」と「文化財の保護と活用」という新しい項目を入れました。「立川市民科の推進」の中に第6次計画のⅠ-2-②も含まれる形で作りました。立川市民科には地域課題解決に関わる学びとか地域の担い手を育てる学びなど含む幅広いものとして位置付けられてきたのでここに含めました。「学社一体の推進」は新しい施策の方向として取り上げています。この下に①地域学校協働本部事業の推進と②地域学習館と学校の連携が入っています。①は事務局からの提案に含まれていましたし、地域学校コーディネーターの育成は生涯学習推進センターがやっていますので、これが入ったのですが、②は檜崎副会長からこれも大きな柱ではないかというご提案があつて入っています。このⅢは事業の名前や部署の名前がそのまま入っていて、とても具体的になっています。最後、「Ⅳ社会教育人材の育成とネットワーク」ですが、社会教育人材という言葉が聞きなれないということであれば元々の地域人材という言葉に戻しても構いません。社会教育人材について国が力を入れて文章を作ったりしているので社会教育という表現をあえて使ってみました。1が「地域人材・団体・組織の育成と支援」ということで、元々は「地域人材ネットワークの構築」となっていたものです。実際に入っている事業の中身が人だけでなく、地域の支える団体や組織との連携や・協働が進められていて、育てるという観点もあるので、そのような表現にしました。G委員からも市民リーダーの育成や活用などの言葉を具体化の取組に表現として入れた方がいいのではないかとご意見としていただいていたので、今は入っていないのですが、市民リーダーという表現を足したり、強調したりするのはありかと思います。②は元々「地域を担う将来世代を育むしくみづくり」だったものを変えてみました。前は学びにかかわるという表現で、少しぼんやりとした表現だったので、今回は少し踏み込んだ形で社会教育人材や担い手という形にしています。元々が職員の養成となっていたところを「職員の専門的力量形成」としてみました。一般行政職員であれ会計年度任用職員であれ職員さんの専門的力量形成は必要なのではないかということでこのようにしてみました。今までは「コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化」だったものを「職員のコーディネート能力の計画的な育成・向上・研修体制の強化」と長くなってしまったのでスマートな表現があればいただければと思います。説明が長くなってしまいました。立て付けがこれでいいか、項目がこれでいいかどうか、表現がこれでいいかどうかを含めてご意見いただければと思います。

(A委員) 施策の目標が3つから4つに増えるという話がありまして、Ⅰが学習の場、Ⅱが活用の充実、Ⅲがその学びの方向性が書かれているように思えます。Ⅳが各種団体との関係性のようなところに書かれていて、3つより4つに書かれている方が目的がより明確に書かれているのでいいと思います。

(会長) ありがとうございます。第6次計画ではⅠとⅢに多くの項目がついていたので

バランスが取れていなかったということもありますので、多少整理されたかと思っています。

(D委員) 表の下の方に会長のお考えになった思いの詰まった専門用語が出てくるのですが、本文中で定義づけをして解説していただければ伝わると思います。あまりに直感的にではない表現であれば違和感がありますが、この言葉はそこまで気にならないと感じました。細かい話ですが、ボランティアサポートや市民リーダーのサポートという意見を出させていただきましたが、表で言うとIV-1のところですが、②の地域の担い手という言葉ですが、あまりに広すぎる気がしていて、学びにかかわる市民や組織と書かれていたのが、地域の担い手となっても何の担い手なのかわかりづらい気がします。自治会も関係あると言えば関係あるのですが、そこまで広げたイメージで進めていくのか、生涯学習やスポーツなどターゲットを絞っていくのか曖昧になってしまったと感じました。同時に「担い手の育成とネットワーク支援」という言葉なのですが、ネットワークを強化するための支援ですか。

(会 長) ネットワークをつくる支援ですね。

(D委員) 前回までに意見を出させていただいているボランティアや市民リーダーの支援のところで、手弁当で取り組んでいる方が多いのですが、ボランティアだからということを出してしまうとなり手がないというのが自治会や市民リーダーでも同じ状況です。ここでは「地域の担い手の育成と支援・ネットワーク強化」という風に分けていただけるといいかと思っています。

(B委員) ネットワーク化するという意味ですか。

(D委員) そういうことだと思います。

(会 長) 組織化したり団体同士をつないだりするということですね。

(D委員) そこだけの支援に留まらず、活動支援を念頭に置いていただきたいです。

(B委員) ここでいう地域の担い手とは地域学習の担い手という意味でしょうか。

(D委員) そのあたりが曖昧だと思います。

(会 長) 前の計画だと「地域を担う将来世代を育むしくみづくり」になっていて、そこに何が書いてあるかということ、学校支援ボランティアやPTAの支援、青少年団体と一緒に活動や地域学習館運営協議会が行っている地域活性化事業など、学びの担い手でもあり地域の担い手でもあるという両方が入ってくるような話です。残した方がいいと思って①は学びに関するとか関わるという意味で「社会教育人材・団体・組織」としたのですが、②は地域の担い手ということで学習に関わらないボランティアなイメージで作っています。

(副会長) IVの施策目標で社会教育人材と言っているのですが、具体化の取組でわざわざ言わなくても地域の担い手は何なのかはわかると思います。

(会 長) 社会教育に携わる地域を担っていく人たちという枠組みになるということですね。ここは少し整理が必要になるかもしれません。

(D委員) 会長がおっしゃった点でよろしいでしょうか。この間、初めて民生委員の選抜会議に出たのですが、まったくいない地域というのがあって、その支援を本当に生涯学習がやることなのか気になりました。

(会 長) 学びという視点なので直接的な支援は行わないと思います。間接的には関わる

ことはあると思います。

(H委員) IV-1 に団体とありますが、こういった団体を想定しているのですか。

(会 長) 元々入っているのは社会教育関係団体の育成とか市民リーダーの登録制度の活用が事業として入っています。社会教育関係団体の支援も大切なので「団体」と入れたのですが、いろいろとくっつけてしまってわかりづらくなってしまいましたね。

(H委員) 社会教育関係団体というとなんか入ってしまうような気がします。

(会 長) P T Aとかは入るのですが、社会教育関係団体は登録しているので学びや教育に関わる団体として範囲はわかると思います。「学びにかかわる市民や組織との協働」に入っていたのが社会教育関係団体と市民リーダーだったのでそのまま書いてしまってもいいのかもしれませんが。少し具体的すぎる気もしますが。必要となっているのは市民リーダーさんやボランティアさんを育てたり、活動を継続できるように支援したりとか生かすような場面が必要だというのが一つです。職員ではなく市民側から学びを支えてくれる人たちを広げたり活性化したりバックアップしたりすることが一つです。

(B委員) ②は第6次計画では「地域を担う将来世代」となっていますが、将来世代を抜いてあるというのは、将来世代だけではなく、市民リーダーやどなたでも生涯学習の担い手になっていけるようにということを想定されているのでしょうか。

(会 長) 市民リーダーは①に含まれます。事業のぶら下げを苦勞されてぶら下げているのであまりピンポイントになっていないです。

(事務局・管理係長) 会長から案をいただいて、どの事業をどこにぶら下げるのか考えたときに、第6次計画の「地域を担う将来世代を育むしくみづくり」に入っていた学習支援ボランティアさんたちは、Ⅲ-2-①に入ってくるかと思います。IV-1-②には社会教育関係団体等の育成事業というところでP T Aの支援を行っております。第6次計画でも各種団体との交流による地域課題の把握ということで地域学習館事業として、自治会、P T A、青少健、民生委員、児童委員などと情報交換を通して地域課題の把握に努めまると書いてあるのですが、D委員のおっしゃる通りそこまで書いて大丈夫かという問題もあります。課題が大きい部分ではあるので、そこにつなげていきたいし、立川市民科に取り組むのはそこが目的でもあるのですが、範囲が広いという気はしました。市長、副市長が来られて、地域福祉コーディネーターを地域学習館に置きたいという話の狙いは地域学習館に地域のキーマンのような方がいらっしゃったり、いろいろな情報が入ってくるところで、地域福祉コーディネーターはいろいろな情報をキャッチして福祉的な施策にも生かせるのではないかという意味合いがあったと思います。先ほど地域拠点と学習拠点という話がありましたけれども、地域拠点として機能しているのも事実ですので、ここは大きくしてもいいかとも思います。

(会 長) ネットワークの方で言うとⅠ-1-③に入っている「交流の場や機会の提供」のところに地運協の委員さんの交流会がこっちに入っているんで、ⅢやⅣに移動するかもしれません。市民の方の文化祭だけではなくて、担い手の交流の方に入っていたりするので、Ⅳの方に持ってくるのも考え方としてはありますね。

(D 委員) 自治会が 10 条団体と呼ばれたりしますよね。あれは社会教育関係団体の一部という意味ですか。

(事務局・生涯学習係長) 10 条団体というのは、登録が必要ない社会教育法で認められている団体を指しています。はっきり書いてあるわけではないのですが、PTA や自治会は社会教育法の 10 条に当てはまる団体としています。

(会 長) IV のところを中心に議論をしましたが、表現の仕方や中身をどうするかについては、答申に向けて練っていこうと思いますので、その他の部分についてはいかがでしょうか。

(D 委員) III の「立川のまちを知り、…」のところなのですが、この大枠が一つ増えたという話がありましたが、第 6 次計画でも立川市民科や学社一体をいれていただいで取り組んできたものを一つの柱として明確化していると思います。先ほど具体的な事業名が入っているのはどうかとおっしゃっていましたが、逆に私はいいと思います。

(会 長) III はこの表現でよろしでしょうか。

(I 委員) そこの部分の表現が抽象的に感じています。カッコの中の「つながりづくり・地域づくりの学びの推進」の方がダイレクトに伝わるのでいいと思います。

(C 委員) 私もカッコ内の表現の方がしっくりくると思います。

(会 長) ここはあえてまちづくりではなく地域づくりにしています。

(I 委員) ぜひそれをお願いします。まちづくりでも都市づくりでもなく地域づくりがいいと思います。

(B 委員) 立川市民科の学びが立川を知ろうということだと思いますので、私は「立川のまちを知り…」の方がいいと思います。

(副会長) 「文化財の保護と活用」の項目が「つながりづくり…」の内容と合っていない気がします。

(会 長) 地域づくりの方のワードにかけてみたつもりです。そういうことで言うと施策の方向の「地域課題」でもないと思えますね。今回「活用」も入れているので、地域づくりにつながるのではないかと、多少強引ではありますが関連付けられるかと思っています。

(A 委員) 地運協などで地域を知ってもらうという講座を行うと新しい人が多く入ってきます。文化財の保護や活用と地域のそういったものが合わさって地域を知するというイメージで保護と活用のところは捉えています。

(会 長) どうしましょう。両方いいという意見が出ています。

(A 委員) 誰でも学べるミニ講座のようにして、自分たちの地域の文化財を写真何枚かでまとめて 2、3 分見るとさわりの部分がわかるようなものを多く作れると、地域づくりにおける文化財も生きてくるのではないかと思います。

(I 委員) ここは、まだ決定ではないにしてもなくなるということですよ。

(会 長) 答申なので、こういう方向性で盛り込んでくださいと言ったことを、市がどのように受け止めるかというところになるかと思いますが、議論しているところも聞いていますので、途中から並行して計画づくりに入っていくことになるかと思っています。そう考えると副題として両方入れておいてもいいですね。

(C 委員) III-2 の「学社一体の推進」なのですが、私としては「将来世代を育む」という言葉をどこかに入れたくて、①に入っているという風に先ほどおっしゃっていたので、それであれば「将来世代を育む地域学校協働本部事業の推進」という形にしてほしいと思います。将来世代が立川のまちでつながりづくりや地域づくりを推進してほしいと思っています。地域学校協働本部事業の主軸であるとすればこの言葉を入れてほしいと思います。

(会 長) ありがとうございます。ここの部分は事業名だけでカラーや方向性を出したいと思っていたので私はいいと思います。

(C 委員) もう一つよろしいでしょうか。I-2-①なのですが、カッコ書きの多彩なという言葉が入ることで、福祉的なものも含まれるとすればこれがいいと思いました。多彩なという言葉を上段に入れていただいてもいい、どちらでも入れていただくとより広がる気がします。今回の第 7 次計画の方は前回より一歩進んだ印象がありますので、そこに言葉を入れるのがいいと思いました。

(会 長) いいですね。「市民とともにつくる多彩な学びの場づくり」。方向性みたいなものを付け加えたりするのはいいですね。あっという間に時間が経ってしまったのですが、枠組みや分け方はおおむねの方向性はよろしいでしょうか。(同意) ありがとうございます。この先の進め方なのですが、次回の 11 月 11 日の会議では、答申案の中身の文言を検討します。この項目には市民リーダーのことをしっかり書くとかこの部分には他部署との連携について追記するとかまで話し合いたいと思っています。第 6 次計画の時に出した答申をベースに前回から引き継いでいる項目は、そこに何を足したり引いたりするかというところを皆様にご意見をいただきたいです。新しく立てた項目については、ここにこういうのを入れてほしいとか、進捗評価に出てきたこの観点をに入れてほしいとかを、箇条書きで構わないので、次回の会議の前にいただきたいと思っています。それを答申案の原案として前半から見ていきながら文章を練っていきたいと思っているので、次回が 11 月 11 日で、会議の前までにいただいたやつを見て、文章として整理して会議でお出ししたいので事務局にはいつごろまでに送ればよろしいのでしょうか。

(事務局・管理係員) 会議の前に事前に皆様に見ていただく時間は必要ですか。

(会 長) それをしようと思うと非常に大変なので、最低限でも出してもらってそれを一本の原案としてまとめたものを当日見てもらいたいとしていつ頃ですかね。

(事務局・管理係員) 文章化したりする作業のことを考えると 5 日には作業を開始したいと思いますので、11 月 4 日までにご提出いただけると助かります。

(会 長) 学園祭の時期に作業の時間が取れそうなので 10 月末ないし 11 月 1 日を目標にいかがでしょうか。

(事務局・管理係員) これはどういう…。

(会 長) 事務局に送るのがです。

(事務局・管理係員) 前回のフォーマットを活用しないと間に合わないですかね。

(会 長) 前回の会議の時に答申案を皆様にお渡ししています。

(事務局・センター長) そこに加除修正していただく形でしょうか。

(会 長) あれをベースに検討してください。

(事務局・管理係員) 前回の答申をワードでお渡しして書き込んでいただくようなイメージでしょうか。それともエクセルみたいなものに前と後みたいな正誤表のようなイメージのものの方がよろしいでしょうか。

(B 委員) ワードの方がいいです。

(I 委員) ワードだとルールを決めていただかないといけないかと思います。

(会 長) 色とか変えていただきますか。

(事務局・管理係員) 赤字と取消線を駆使していただければ問題ないと思います。

(E 委員) ルールを作ってそれを送ってもらえればいいと思います。

(会 長) あまり高度ではないルールを決めていただければと思います。それと前回のデータを送ってください。

(C 委員) 前回いただいたものを持ってきているのですが、これが送られてくるということでしょうか。

(事務局・管理係員) そういうことになります。

(I 委員) 事務局で完成していただくのは、全員の意見をすべて見せる感じにするということでしょうか。

(会 長) 皆様の意見を事務局に送っていただいて、それをまとめたものを私と副会長で評価の時のように原案として作って 11 日お見せできたらいいなと思っています。

(事務局・管理係員) 事務局がまとめるというのは文章をまとめるのではなくて…。

(会 長) ではなくて、進捗評価の時のように一覧を作っていただきたいということです。

(事務局・管理係員) そうであれば、1 日あればお渡しできると思います。

(会 長) それでどこかの週末で作業が必要なのでこのスケジュールになっています。評価の項目のようにどこの項目にどのような意見が出ましたという資料をいただければと思います。期間が短いのですけれども答申に向けて、こういう言葉を入れたいとか文章を入れたいとかご意見をいただければと思います。

4. その他

(1) 令和 6 年（2024 年）第 3 回立川市議会定例会報告について

(会 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局・センター長) 10 月 2 日まで開催されておりましたが、一般質問の話が主となります。生涯学習に関することだと、頭山議員、わたなべ議員、糸川議員から質問がございました。一番は、先にご説明してありましたわたなべ忠司議員の社会教育機関等に関する事務の管理・執行についてでございますが、前回の会議終了後にお示しした通りでございます。そのほかに砂川学習館のコンクリートの強度不足という事案がありまして、糸川議員と頭山議員からご質問がございました。以下、決算総括質問で党の代表ということで質問されますが、松本あきひろ議員から歴史民俗資料館の今後についてというご質問がございました。以下、時間の都合で説明は割愛させていただきます。

(会 長) ありがとうございます。資料をつけていただきましたのでご覧いただければと思います。

(2) 12月臨時会の日程調整について

(会 長) 生涯学習推進計画を検討するために12月に臨時会を開催したいと思います。事前に事務局と私でスケジュール調整をしまして、12月16日の月曜日か、18日の水曜日か、12日か19日の木曜日がいいそうなのですが、すでに予定が入っている委員さんもいらっしゃるかと思いますので、できるだけ多くの方が参加できるようにしたいと思います。都合がつかない人は手を挙げてください。12月16日がダメな方(なし)。一発で決まりました。念のため、18日の水曜日がダメな方。

(F委員) だめかもしれません。

(会 長) 16日の方がよりいいということで16日ですかね。あとはG委員にもご都合を確認しておいてください。

(D委員) 二つくらい候補日を決めておかなくて大丈夫ですか。

(会 長) 12日と19日は私が授業を繰り上げないと来れないのですが、念のため確認しておきます。12日がダメな方(2名挙手)。19日がダメな方(なし)。年末にかけて答申を一気に仕上げていくことになりますが、意見を出していただくときに評価のコメントも参考にさせていただいて、〇〇してくださいとなっている部分などは答申にも入れていきたいと思っておりますので、ご提出いただければと思います。そのほかにございますか。F委員からいただいた資料のご説明もお願いします。

(F委員) 毎年、東京都では地域学校協働活動推進フォーラム/コミュニティ・スクール推進フォーラムを開催しております。多くの地域コーディネーターの方やコミュニティ・スクールの委員さんが参加してくださるのですが、第1部として「社会に開かれた教育課程」はなにを目指すのか～いま、そしてこれからの子供たちの学びと、地域と学校の連携協働～というテーマで文部科学省の田村学先生をお招きして学校関係者の方々にも聞いていただきたいということでフォーラムを企画しました。第2部としてどうやって地域コーディネーターの皆さんと地域・学校をつくっていくかなど5つのという分科会を開催します。地域コーディネーターさん向けだったり、PTAさん向けだったり、いろいろと企画してみましたのでよろしければご参加ください。よろしくお願いします。

(会 長) ここにいるようなメンバーも参加できるということですね。

(F委員) もちろんです。

(会 長) ご関心のある方が周りにもいたらお声掛けください。そのほかございますか。

(事務局・生涯学習係長) 東京学芸大学の柴田先生と学生さんが、学校には四中、八中、新生小。コーディネーターさんは西砂と六小。企業には立川ダイスに対してインタビューをしています。地域学校協働本部がどういったものなのか、立川市でも取り組んでいるということを多くの方に知ってもらうために子供たちに配りたいと思います。部数に余裕があれば地運協さんにも配布できるかもしれません。保護者用ではあるのですが、皆様もアンケートが入っておりますので、ご協力いただければと思います。よろしくお願いします。

(会 長) ありがとうございます。授業で取材して資料を作るということに関わらせていただいております。学生たちにとっても学んだ成果を生かして励みになっており

ます。ありがとうございます。

(A 委員) 地域学校コーディネーターと地運協が連携しているのですが、そのあたりについてはノータッチなので先生に言っていただければと思います。力を入れて核にして、地域で支える学校を地域学習館で取り組んでいくことが使命だと思っていますので、残念だなと思いました。

(E 委員) 「地域の方々」に入っているんですね。

(A 委員) できれば文字として入っていればいいと思いました。これだと地域学習館や地運協が関わっているようには読めないと思いました。

(会 長) ありがとうございます。入っていることは確かだと思うのですが、強調するかどうかというところで、先ほどの計画のところでも明確にしていこうということがあったと思いますので、強調していくことも大事ですね。

(事務局・生涯学習係長) 西砂のコーディネーターさんのインタビューの中に若干ですけど、西砂学習館運営協議会の意見交換会への出席とか載っておりますが、前提として地域学校協働本部というものを知っていただきたいというものになっています。

(会 長) ありがとうございます。

(A 委員) 今後の方向性として、地域学習館と学校との連携のあたりは進んでいくところの内容だと思います。

(事務局・生涯学習係長) そこが一番大事で、アトム 1 階にいる私や担当者 2 人がやっていくのではなくて地域学習館が中心になってこの事業を進めていかなくてはいけないというのはご指摘の通りです。

(会 長) おっしゃるように学校、地域、家庭の連携と言いますし、そこに公民館や社会教育がどう関わるかという話題はよく出てくるのですが、実際うまくいかない公民館や社会教育施設があって、どう関わっていくか地域ごとに課題も多いところだと思います。立川では取組が始まっているところですので、次どういったところに力を入れていくかを計画の中に説明を入れていきたいと思いますし、学習館の役割が大事だということを位置付けていかないといけないかと思います。ほかにはいかがでしょうか。今週末に何かありませんでしたか。

(事務局・管理係員) 今週の木曜日に社会教育研究大会の全国大会がありますので、副会長にご出席いただきます。

(副会長) 水戸まで行ってきます。

(会 長) ありがとうございます。よろしくお願いします。ブロック研修会が…。

(事務局・管理係員) 11 月の 9 日です。

(会 長) まだ先ですね。楽市がある日でいけない人もいますが、H 委員と F 委員と私で行くという話でしたね。それぞれ次の会議でご報告いただければと思います。次の会議は 11 月 11 日です。場所は市役所となります。第 5 回生涯学習推進審議会を閉会といたします。ありがとうございました。